動機

笹原先輩はテニス部の部長である。部長といってもすべてが完璧な人ではない。笹原先輩は普段はふざけていることが多い人だ。しかし、テニスのことになるととても熱心になる。僕は中学生になるまで一回もテニスをしたことがなかった。そのため、打ち方やサーブの仕方、ルールもまったくわからなかった。そんな僕に、自分の練習時間を割いて熱心に教えてくれたのが笹原先輩だった。僕はまだ入学したての頃だったので、先輩というのが少し怖い存在だった。だが、それも笹原先輩のおかげで印象が変わった。僕は先輩のようにはなることができないが、今回のインタビューで何かを変えることができるのではと思った。